

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪YMCA国際専門学校
設置者名	学校法人大阪YMCA

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
ビジネス専門課程	国際ホテル学科	夜・通信	873時数	160時数	
	国際ビジネス学科	夜・通信	401時数	160時数	
外国語専門課程	日本語学科 2年コース	夜・通信		160時数	※
	日本語学科 1.5年コース	夜・通信		160時数	※
	進学日本語学科	夜・通信		160時数	※
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名	日本語学科2年コース、日本語学科1.5年コース、進学日本語学科
(困難である理由)	実務習得のための学科ではなく、語学習得および大学入学準備学習が目的であるため

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪YMCA国際専門学校
設置者名	学校法人大阪YMCA

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	大学教授 (2021年4月1日～)	2020年7月1日～ 2022年6月30日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	大学教授 (2009年4月1日～)	2020年7月1日～ 2021年6月30日	組織運営体制への チェック機能
		2021年7月1日～	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員 (2019年4月1日～)	2020年7月1日～ 2022年6月30日	組織運営体制への チェック機能

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪YMCA国際専門学校
設置者名	学校法人大阪YMCA

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【国際ホテル学科・国際ビジネス学科】</p> <p>授業計画書(シラバス)については、業界の動向に沿って編成されるよう、毎年度3月に学校長・学科長・教務主任・担当科目講師と協議・作成し、決定される。</p> <p>各授業計画書(シラバス)には、以下の内容を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の方法(講義、演習、実習の別) ・ 授業の内容(授業科目の概要) ・ 学生の学習過程および学習目標 ・ 授業の計画(授業の回数やスケジュール) ・ 実務経験のある教員等による授業科目についてはその旨 <p>授業計画書(シラバス)の学生への周知については、各授業概要をまとめた「教科概要」を新年度オリエンテーションにて配布し、各授業の初回にそれぞれの授業計画書(シラバス)について教員から説明する。</p> <p>授業計画書(シラバス)の公表は、年度始め4月末までに下記の方法にて行う。</p> <p>【日本語学科2年コース、日本語学科1.5年コース、進学日本語学科】</p> <p>授業計画書(シラバス)については、日本語学科においては留学生の進路状況を踏まえて編成されるよう、進学日本語学科においては留学生大学入試状況を踏まえて編成されるよう、毎年度3月に学校長・学科長・教務主任と協議・作成し、決定される。</p> <p>各授業計画書(シラバス)には、以下の内容を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の方法(日本語習熟度別) ・ 授業の内容(日本語習熟度別、過去入試内容) ・ 学生の学習過程および学習目標 ・ 授業の計画(授業の回数やスケジュール) <p>授業計画の学生への周知については、各授業の初回にそれぞれの教員から説明する。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【国際ホテル学科・国際ビジネス学科】

各授業科目において、春期・秋期の各期間中に小テストやレポート課題を実施する。春期・秋期の各期末には、筆記試験を基本として期末試験を実施する。

これらの筆記試験・出席率・受講態度などを総合的に考慮し、授業計画書(シラバス)に記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果の評価および単位認定を下記のように行う。

・「A 評価」「B 評価」「C 評価」「D 評価」「F 評価 (単位不認定)」の 5 段階評価で算出する。

・点数評価できない科目 (学校行事やクラスアワー) については、出席率 90%以上を「P 評価 (単位認定)」と評価する。

また、企業実習においては、実習期間中の企業からの評価表の提出にて、単位認定と評価する。

【日本語学科 2 年コース、日本語学科 1.5 年コース、進学日本語学科】

各授業科目において、前期・後期の各期末に筆記試験を基本として期末試験を実施する。一部授業科目においては課題提出や小テストで置き換える。

これらの筆記試験・出席率・受講態度などを総合的に考慮し、各授業科目の学修成果の評価および単位認定を下記のように行う。

・「A 評価」「B 評価」「C 評価」「D 評価」「F 評価 (単位不認定)」の 5 段階評価で算出する。

・進学日本語学科においては、特別単位として、日本語能力試験・TOEIC・日本留学試験の試験結果をもって単位認定をする場合がある。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【国際ホテル学科・国際ビジネス学科】

客観的な指標の設定には、前述2. に記した5段階評価「A評価」から「F評価」に、各規定のポイント（4～0）を乗じた合計点を総受講科目で割ったスコアを算出し、そのスコアをもって成績分布を算出する。

GPA 計算式

$$\frac{A(4) \times \text{科目数} + B(3) \times \text{科目数} + C(2) \times \text{科目数} + D(1) \times \text{科目数} + F(0) \times \text{科目数}}{\text{総受講科目数 (不合格科目を含む)}}$$

【日本語学科2年コース、日本語学科1.5年コース、進学日本語学科】

客観的な指標の設定には、前述2. に記した5段階評価「A評価」から「F評価」に、評価ポイント（3～0）を乗じた合計点を総単位数で割ったスコアを算出し、そのスコアをもって成績分布を算出する。

計算式

$$\frac{(A \text{ 評価の単位数} \times 3) + (B \text{ 評価の単位数} \times 3) + (C \text{ 評価の単位数} \times 2) + (D \text{ 評価の単位数} \times 1) + (F \text{ 評価の単位数} \times 0)}{\text{総単位数}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

以下の卒業の認定に関する方針と審査基準を踏まえ、卒業を認定する。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業単位認定・称号授与の方針）

【学科共通】

1. ビジネス社会で求められる社会人基礎力（挨拶・笑顔・身嗜み・コミュニケーションマナー・主体性）を身に付けている。
2. 相手を尊重し、相手の立場になって考え判断し行動する素養を身に付けている。
3. 様々な状況においても、適切に対応できる協調性・柔軟性・ストレス耐性・責任感を身に付けている。

【国際ホテル学科】

1. ホテル宿泊・料飲・宴会部門他の中核を担う人材として、主体的かつ能動的な行動ができる専門実務知識と技術を習得している。
2. 国内外で広く活躍するために必要な異文化理解に興味を持ち、グローバルコミュニケーション能力を習得している。

【国際ビジネス学科】

1. 様々なビジネス分野で共通して求められる経済・経営、マーケティング、ICT、プレゼンテーションなどの専門実務知識と技術を習得している。
2. 国内外で広く活躍するために必要な異文化理解に興味を持ち、グローバルコミュニケーション能力を習得している卒業認定は、下記の審査基準により判定会議で協議・認定される。

【日本語学科 2 年コース、日本語学科 1.5 年コース、進学日本語学科】

下記の審査基準により、判定会議で決定する。

1. 規定の科目を履修し、定められた試験を受け、課題を提出し、卒業に必要な単位を取得していること。
2. 在籍期間中の出席率が 85.0%以上であること。
3. 学習態度・生活態度に問題がないこと。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪YMCA国際専門学校
設置者名	学校法人大阪YMCA

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html
財産目録	https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html
事業報告書	https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html
監事による監査報告（書）	https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		ビジネス専門	国際ホテル学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年		1906 単位時間	524 単位時間	960 単位時間	280 単位時間		142 単位時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		62	62人	6	31人	37人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画（シラバス）については、業界の動向に沿って編成されるよう毎年度3月に学校長・学科長・教務主任・担当科目講師と協議・作成し、決定される。</p> <p>各授業計画書（シラバス）には、以下の内容を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の方法(講義、演習、実習の別) ・授業の内容(授業科目の概要) ・学生の学習過程および学習目標 ・授業の計画(授業の回数やスケジュール) ・実務経験のある教員等による授業科目についてはその旨 <p>授業計画書（シラバス）の学生への周知については、各授業概要をまとめた「教科概要」を新年度オリエンテーションにて配布し、各授業の初回にそれぞれの授業計画書（シラバス）について教員から説明する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>各授業科目において、春期・秋期の各期間中に小テストやレポート課題を実施する。春期・秋期の各期末には、筆記試験を基本として期末試験を実施する。</p>

これらの筆記試験・出席率・受講態度などを総合的に考慮し、授業計画書(シラバス)に記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果の評価および単位認定を下記のように行う。

・「A評価」「B評価」「C評価」「D評価」「F評価(単位不認定)」の5段階評価で算出する。

・点数評価できない科目(学校行事やクラスアワー)については、出席率90%以上を「P評価(単位認定)」と評価する。

また、ホテル企業実習においては、実習期間中の企業からの評価表の提出にて、単位認定と評価する。

卒業・進級の認定基準

(概要)

以下の卒業の認定に関する方針と審査基準を踏まえ、卒業を認定する。

1. ディプロマ・ポリシー(卒業単位認定・称号授与の方針)

【学科共通】

- ①ビジネス社会で求められる社会人基礎力(挨拶・笑顔・身嗜み・コミュニケーションマナー・主体性)を身に付けている。
- ②相手を尊重し、相手の立場になって考え判断し行動する素養を身に付けている。
- ③様々な状況においても、適切に対応できる協調性・柔軟性・ストレス耐性・責任感を身に付けている。

【国際ホテル学科】

- ①ホテル宿泊・料飲・宴会部門他の中核を担う人材として、主体的かつ能動的な行動ができる専門実務知識と技術を習得している。
- ②国内外で広く活躍するために必要な異文化理解に興味を持ち、グローバルコミュニケーション能力を習得している。

2. 審査基準

- ①規定の科目を全て履修し、各々の成績が合格点に達していること。
- ②欠席日数が1年間で15日以内であること。
- ③学習態度・生活態度に問題がないこと。
- ④学費が完納されていること。

学修支援等

(概要)

毎週の教職員会議において学生の出席状況、授業態度、生活上の問題を共有し、問題に対しては協議と合意形成を経て解決する。担任から本人と保護者や連携機関(必要に応じて通訳を介する)に連絡を取り、状況を把握した上で上長と共に適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
37人 (100%)	3人 (8.1%)	31人 (83.8%)	3人 (8.1%)
（主な就職、業界等）スイスホテル南海大阪、ホテル日航大阪、インターコンチネンタルホテル大阪、エースホテル京都、ザ・ホテル青龍京都清水、グランドニッコー淡路、ホテル日航ハウステンボス、ホテルおかだ、（株）ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ、（株）相鉄ホテルマネジメント、（株）王宮、（株）ロッテ、（株）共立メンテナンス、（株）グリーンズ、（株）ゼンショーホールディングス ほか			
（就職指導内容） 【対策】 <ul style="list-style-type: none"> ・通年の就職対策演習を通して学生が自己の興味・能力・価値観を探索するとともに、適性診断も活用してキャリアプランを完成する。更にキャリアコンサルタント（国家資格有資格者）が専任として常駐し、個人カウンセリングを定期的を実施する。就職課による求人案内と就職試験対策などを実施する。 ・ホテル学校 OB 会において在校生の交流を定期的を実施し、業界の最新情報収集やアドバイスをいただく。 ・卒業生の就職先企業を訪問し、卒業生との面談を通してフォローを実施。 ・希望卒業生を対象としたカウンセリングを実施。 ・留学生の就職については、在留資格変更申請を企業と連携して行い徹底した管理を行っている。 【効果】 <ul style="list-style-type: none"> ・通年授業と学校の定期的カウンセリングにより、それぞれの時期に適応した企業選択と再検討ができる。 ・業界で活躍する OB や直近の卒業生と交流することにより、業界の最新情報収集や学生個人が抱える悩み・課題解決に繋がる。 			
（主な学修成果（資格・検定等）） 実用英語検定 2 級、TOEIC600 点以上、日商 PC 検定 3 級、情報処理技能検定 3 級、国家資格レストランサービス技能検定 3 級など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
74人	2人	2.7%
(中途退学の主な理由) 留学生帰国（家庭事情、病気）		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行うほか、カウンセリングの活用、保護者や出身校との密な連絡を実施。毎週の教職員会で学生の欠席状況や授業態度を共有し、問題があれば早急に出身校や保護者との連絡を密に取り、連携を大切にしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		ビジネス専門	国際ビジネス学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1870 単位時間	295 単位時間	1119 単位時間	140 単位時間	316 単位時間	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		76人	65人	6人	31人	37	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>授業計画（シラバス）については、業界の動向に沿って編成されるよう毎年度3月に学校長・学科長・教務主任・担当科目講師と協議・作成し、決定される。</p> <p>各授業計画書（シラバス）には、以下の内容を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の方法(講義、演習、実習の別) ・授業の内容(授業科目の概要) ・学生の学習過程および学習目標 ・授業の計画(授業の回数やスケジュール) ・実務経験のある教員等による授業科目についてはその旨 <p>授業計画書（シラバス）の学生への周知については、各授業概要をまとめた「教科概要」を新年度オリエンテーションにて配布し、各授業の初回にそれぞれの授業計画書（シラバス）について教員から説明する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>各授業科目において、春期・秋期の各期間中に小テストやレポート課題を実施する。春期・秋期の各期末には、筆記試験を基本として期末試験を実施する。</p> <p>これらの筆記試験・出席率・受講態度などを総合的に考慮し、授業計画書(シラバス)に記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果の評価および単位認定を下記のように行う。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・「A評価」「B評価」「C評価」「D評価」「F評価（単位不認定）」の5段階評価で算出する。 ・点数評価できない科目（学校行事やクラスアワー）については、出席率 90%以上を「P 評価（単位認定）」と評価する。また、インターンシップにおいては、実習期間中の企業からの評価表の提出にて、単位認定と評価する。
卒業・進級の認定基準 （概要） 以下の卒業の認定に関する方針と審査基準を踏まえ、卒業を認定する。 1. ディプロマ・ポリシー（卒業単位認定・称号授与の方針） 【学科共通】 ①ビジネス社会で求められる社会人基礎力（挨拶・笑顔・身嗜み・コミュニケーションマナー・主体性）を身に付けている。 ②相手を尊重し、相手の立場になって考え判断し行動する素養を身に付けている。 ③様々な状況においても、適切に対応できる協調性・柔軟性・ストレス耐性・責任感を身に付けている。 【国際ビジネス学科】 ①様々なビジネス分野で共通して求められる経済・経営、マーケティング、ICT、プレゼンテーションなどの専門実務知識と技術を習得している。 ②国内外で広く活躍するために必要な異文化理解に興味を持ち、グローバルコミュニケーション能力を習得している。 2. 審査基準 ①規定の科目を全て履修し、各々の成績が合格点に達していること。 ②欠席日数が1年間で15日以内であること。 ③学習態度・生活態度に問題がないこと。 ④学費が完納されていること。
学修支援等 （概要） 毎週の教職員会議において学生の出席状況、授業態度、生活上の問題を共有し、問題に対しては協議と合意形成を経て解決する。担任から本人と保護者や連携機関（必要に応じて通訳を介する）に連絡を取り、状況を把握した上で上長と共に適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
39人 (100%)	4人 (10.3%)	34人 (87.2%)	1人 (2.6%)

<p>(主な就職、業界等)</p> <p>(株)川田製作所、(株)ドンキホーテ、(株)ライフ、阪和化工機(株)、プラステル(株)、大阪真空工業(株)、プラス精機(株)、(株)成光物産、物語コーポレーション、協同組合事業交流センター関西地区営業所、ワールドゲート事業共同組合、九州技術試験協同組合 ほか</p>
<p>(就職指導内容)</p> <p>【対策】・通年の就職対策演習を通して学生が自己の興味・能力・価値観を探索するとともに、適性診断も活用してキャリアプランを完成する。更にキャリアコンサルタント(国家資格有資格者)が専任として常駐し、個人カウンセリングを定期的を実施する。就職課による求人案内と就職試験対策などを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の就職先企業を訪問し、卒業生との面談を通してフォローを実施。 ・希望卒業生を対象としたカウンセリングを実施。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年授業と学校の定期的カウンセリングにより、それぞれの時期に適応した企業選択と再検討ができる。 ・業界で活躍するOBや直近の卒業生と交流することにより、業界の最新情報収集や学生個人が抱える悩み・課題解決に繋がる。
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>実用英語検定2級、TOEIC600点以上、日商PC検定3級、商業簿記3級、情報処理技能検定2級(主な学修成果(資格・検定等))</p>
<p>(備考)(任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86人	12人	14.0%
(中途退学の主な理由)		
留学生帰国(家庭事情、病気)、大学進学		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
担任が定期的に個人面談を行うほか、カウンセリングの活用、保護者や出身校との密な連絡を実施。毎週の教職員会で学生の欠席状況や授業態度を共有し、問題があれば早急に出身校や保護者との連絡を密に取り、連携を大切にしている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
文化・教養	外国語専門	日本語学科2年コース	○					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	1700 単位時間	1268 単位時間	432 単位時間				
			単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
140人	47人	47人	5人	30人	35人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>授業計画書（シラバス）については、留学生大学入試状況を踏まえて編成されるよう、毎年度3月に学校長・学科長・教務主任と協議・作成し、決定される。</p> <p>各授業計画書（シラバス）には、以下の内容を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の方法(日本語習熟度別) ・授業の内容(日本語習熟度別、過去入試内容) ・学生の学習過程および学習目標 ・授業の計画(授業の回数やスケジュール) <p>授業計画の学生への周知については、各授業の初回にそれぞれの教員から説明する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>各授業教科において、前期・後期の各期末に筆記試験を基本とした試験を実施する。一部授業科目においては課題提出や小テストで置き換える。</p> <p>これらの筆記試験・出席率・受講態度などを総合的に判断し、各授業科目の学修成果の評価および単位認定を下記のように行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A評価」「B評価」「C評価」「D評価」「F評価(単位不認定)」の5段階評価で算出する。
卒業・進級の認定基準
<p>下記の審査基準により、判定会議で決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 規定の科目を履修し、定められた試験を受け、課題を提出し、卒業に必要な単位を取得していること。 2. 在籍期間中の出席率が85.0%以上であること。 3. 学習態度・生活態度に問題がないこと。
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>毎週の教職員会議において学生の出席状況、授業態度、生活上の問題を共有し、問題に対しては協議と合意形成を経て解決する。担任から本人と保護者や連携機関（必要に応じて通訳を介する）に連絡を取り、状況を把握した上で上長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 100 (%)	15人 88.2 (%)	0人 0 (%)	2人 11.8 (%)
(主な進学先) 立命館大学、龍谷大学、桃山学院大学、修成建設専門学校			

(進学就職指導内容) 担任が定期的に面談を実施し、希望進路先に応じた対策を行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語能力試験 N1 合格者 3 名、N2 合格者 9 名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35 人	9 人	25.7%
(中途退学の主な理由) 大学・大学院・専門学校進学、帰国(経済的理由、家庭の事情)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が定期的に個人面談を行い、教職員会議でその内容について情報共有を行っている。問題があれば、教務主任や学科長を交えて本人との面談を実施している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	外国語専門	日本語学科 1.5 年コース					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5 年	昼	1275 単位時間	951 単位時間	324 単位時間			
単位時間/単位							
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
100 人	62 人	61 人	5 人	30 人	35 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>授業計画書(シラバス)については、留学生大学入試状況を踏まえて編成されるよう、毎年度3月に学校長・学科長・教務主任と協議・作成し、決定される。</p> <p>各授業計画書(シラバス)には、以下の内容を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の方法(日本語習熟度別) ・授業の内容(日本語習熟度別、過去入試内容) ・学生の学習過程および学習目標 ・授業の計画(授業の回数やスケジュール) <p>授業計画の学生への周知については、各授業の初回にそれぞれの教員から説明する。</p>

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>各授業教科において、前期・後期の各期末に筆記試験を基本とした試験を実施する。一部授業科目においては課題提出や小テストで置き換える。</p> <p>これらの筆記試験・出席率・受講態度などを総合的に判断し、各授業科目の学修成果の評価および単位認定を下記のように行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A評価」「B評価」「C評価」「D評価」「F評価(単位不認定)」の5段階評価で算出する。
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>下記の審査基準により、判定会議で決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 規定の科目を履修し、定められた試験を受け、課題を提出し、卒業に必要な単位を取得していること。 2. 在籍期間中の出席率が85.0%以上であること。 3. 学習態度・生活態度に問題がないこと。
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>毎週の教職員会議において学生の出席状況、授業態度、生活上の問題を共有し、問題に対しては協議と合意形成を経て解決する。担任から本人と保護者や連携機関（必要に応じて通訳を介する）に連絡を取り、状況を把握した上で上長と共に適切な指導を行う。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
41人 100 (%)	34人 82.9 (%)	1人 2.4 (%)	6人 14.6 (%)
(主な進学先) 大阪教育大学、関西学院大学、龍谷大学、京都産業大学、辻製菓専門学校			
(進学指導内容) 担任が定期的に面談を実施し、希望進路先に応じた対策を行っている。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語能力試験 N1 合格者 4名、N2 合格者 27名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
66人	20人	30.3%
(中途退学の主な理由) 大学・大学院・専門学校進学、帰国(経済的理由、家庭の事情)		

(中退防止・中退者支援のための取組)
 担任が定期的に個人面談を行い、教職員会議でその内容について情報共有を行っている。
 問題があれば、教務主任や学科長を交えて本人との面談を実施している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		外国語専門	進学日本語学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	875 単位時間	665 <small>単位時間</small>	210 <small>単位時間</small>			
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		33人	33人	1人	15人	16人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
<p>(概要)</p> <p>授業計画 (シラバス) については、業界の動向に沿って編成されるよう毎年度 3月に学校長・学科長・教務主任・担当科目講師と協議・作成し、決定される。</p> <p>各授業計画書 (シラバス) には、以下の内容を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の方法(講義、演習、実習の別) ・ 授業の内容(授業科目の概要) ・ 学生の学習過程および学習目標 ・ 授業の計画(授業の回数やスケジュール) ・ 実務経験のある教員等による授業科目についてはその旨 <p>授業計画書 (シラバス) の学生への周知については、各授業概要をまとめた「教科概要」を新年度オリエンテーションにて配布し、各授業の初回にそれぞれの授業計画書 (シラバス) について教員から説明する。</p>	
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>【進学日本語学科】</p> <p>各授業科目において、前期・後期の各期末に筆記試験を基本として期末試験を実施する。一部授業科目においては課題提出や小テストで置き換える。</p> <p>これらの筆記試験・出席率・受講態度などを総合的に考慮し、各授業科目の学修成果の評価および単位認定を下記のように行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「A評価」「B評価」「C評価」「D評価」「F評価 (単位不認定)」の5段階評価で算出する。 ・ また特別単位として、日本語能力試験・TOEIC・日本留学試験の試験結果をもって単位認定をする場合がある。 	

卒業・進級の認定基準
(概要) 【進学日本語学科】 下記の審査基準により、判定会議で決定する。 1. 規定の科目を履修し、定められた試験を受け、課題を提出し、卒業に必要な単位を取得していること。 2. 在籍期間中の出席率が 85.0%以上 であること。 3. 学習態度・生活態度に問題がないこと。
学修支援等
(概要) 毎月の教職員会議において学生の出席状況、授業態度、生活上の問題を共有し、問題に対しては協議と合意形成を経て解決する。専任教員もしくは校務職員から本人と連携機関（必要に応じて通訳を介する）に連絡を取り、状況を把握した上で上長と共に適切な指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35 人 (100%)	35 人 (100%)	0 人 (0%)	00 人 (0%)
(主な進学先) 大阪芸術大学、大阪教育大学、関西大学、大阪大学、同志社大学、福井工業大学、上智大学、秋田大学、中央大学、豊橋技術科学大学、鹿児島大学 など			
(進学指導内容) 【対策】・キャリアコンサルタント（国家資格有資格者）兼留学生の進学指導実績 15 年の専任教員が常駐し、個人カウンセリングを定期的実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本留学試験 280 点以上 20 名、日本語能力試験 N1 合格者 17 名、N2 合格者 15 名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41 人	6 人	14.6%
(中途退学の主な理由) 海外の大学に進学するため前期学期途中 1 名退学、 学業不振のため 2 名退学、 学校生活不適應のため 1 名退学、 病気により 1 名退学、 行方不明のため 1 名除籍		
(中退防止・中退者支援のための取組) 専任教員と校務職員が定期的に個人面談を行うほか、カウンセリングの活用、保護者や出身日本語教育機関との密な連絡を実施。毎月の教職員会で学生の欠席状況や授業態度を共有し、問題があれば早急に出身校や保護者との連絡を密に取り、連携を大切にしている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
国際ホテル学科	150,000 円	950,000 円		
国際ビジネス学科	150,000 円	920,000 円		
日本語学科 2年コース	100,000 円	740,000 円		
日本語学科 1.5年コース	100,000 円	740,000 円		
進学日本語学科	100,000 円	690,000 円		
修学支援 (任意記載事項)				
<p>【国際ホテル学科・国際ビジネス学科】 在学中に学校の諸活動（留学生の日本語・英語チューター、視覚障がい者対象外出補助ボランティア、国際交流ボランティアなど）に参加・貢献する人たちを応援することを目的とし、学費を減免する「ボランティア奨学金制度」を設けている。</p> <p>書類選考、及び面接試験での応募理由・入学後の取組意欲を評価し、下記の 3 タイプに選抜する。 A タイプ：入学金 150,000 円及び、学費 200,000 円免除 B タイプ：入学金 150,000 円及び、学費 100,000 円免除、 C タイプ：入学金 150,000 円免除</p> <p>【進学日本語学科】 日本国内の日本語学校の学生で、本校に入学を強く希望し、在籍機関中の成績・出席状況がともに良好であり、かつ本校の入学試験、面接における成績が優秀であった者に特待生学費減免制度を設けている。 A 特待生：入学金 100,000 円及び、学費 200,000 円免除 B 特待生：入学金 100,000 円及び、学費 100,000 円免除、 C 特待生：入学金 100,000 円及び、学費 50,000 円免除、 D 特待生：入学金 100,000 円免除</p>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校の教育活動その他の学校運営の状況に係る評価を行うため、企業・関係施設、卒業生等からの参画を得て、学校関係者評価委員会を組織する。 関係業界等との関わりの中で、学校の①教育目的、②教育方法・内容、③ガバナンスの3つの柱を基本として教育活動その他の学校運営の状況に関する評価を積極的に行う。 その評価結果に基づき学校運営の改善を図ること、及び、評価結果等を広く雇用側の関係業界や自治体の関係部署等に公表・説明することにより、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと学校との連携協力による特色ある学校づくりを進めることを基本方針とする。

<p>評価項目詳細：（１）教育理念・目標（２）学校運営（３）教育活動（４）学修成果（５）学生支援（６）教育環境（７）学生の受入れ募集（８）財務（９）法令等の遵守（１０）社会貢献・地域貢献（１１）国際交流</p> <p>委員会の構成： 委員会は、学校長を委員長とし、次の各号に掲げる委員５名以上をもって組織する。（１）卒業生（２）業界関係者（３）校長が必要と認めた者</p> <p>活用方法： 学校関係者評価報告が出される毎年９月から年度末まで、報告書の意見、助言をふまえ、よりよい学校運営と教育活動に取り組む。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
高月プランニングラボ株式会社 上級ホテルレストランコンサルタント	2020年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
	2021年4月1日～2022年3月31日	
関西YMCA交流会 会長	2020年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
	2021年4月1日～2022年3月31日	
株式会社JAPAN・SIQ協会 代表取締役社長	2020年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
	2021年4月1日～2022年3月31日	
株式会社宿屋塾 代表取締役	2020年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
	2021年4月1日～2022年3月31日	
スイスホテル南海南 人事部長	2020年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
有限会社湯元榊原館 代表取締役社長	2020年4月1日～2021年3月31日	企業等委員
大阪YMCA国際専門学校 教員	2020年4月1日～2021年3月31日	卒業生
株式会社ヴァリエ 副支配人		企業等委員
	2021年4月1日～2022年3月31日	
株式会社ザ・ビー・ホテルマネ ジメント 支配人		企業等委員
	2021年4月1日～2022年3月31日	
学校関係者評価結果の公表方法		
<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>https://www.osakaymca.ac.jp/college/information.html</p>		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>https://www.osakaymca.ac.jp/college/</p>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	大阪YMCA国際専門学校
設置者名	学校法人大阪YMCA

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		一人	一人	一人
内 訳	第Ⅰ区分	一人	一人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				一人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。